第10講

意見・根拠の紡ぎ方(1)

知識や理論を当てはめる【演繹】

チャプター1

レクチャー

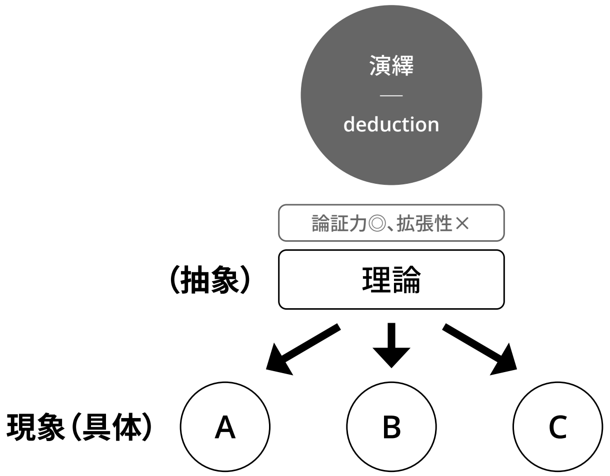
ポイント

(　　　　　　　　　　)とは、一般的・普遍的な事実やルールをもとに、結論を導き出す方法のことである。

事実やルールに(　　　　　　　　　　)が混じると、論理が破綻するので注意しよう。

(　　　　　　　　　　)を用いるには、さまざまな文献に触れたり、各教科で学んだり、適宜インターネットで検索しながら(　　　　　　　　　　)を蓄えるとよい。

○ 演繹(デダクション)



生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター2

問題およびヒント

問題を見てみよう

　人工知能の発達と共に、人間の関与を必要とする作業は大幅に減少すると言われています。そうした中で、働き方はどのように変わるでしょうか。あなたの考えを400字以内で述べてください。

（大同大学　工学部　推薦　2018　改題）

解答案をつくってみよう

100

200

300

400

（　　　　字）

生徒メモ欄

教員記入欄

自己評価表

答案が完成したら、以下表を用いて自己評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見(主張)	設問と意見の関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター3

答案例①

　ＡＩを搭載した機械が一般的に使われるようになり、人の仕事は減ると考える。単純業務は、機械化で素早い対処ができるようになり人数が減り、失業する人も出るだろう。実際に、セルフレジが導入されたことで、その部分だけでも働く人の数が以前より減っていることがわかる。しかし、保育士や幼稚園教諭など、小さな子どものお世話をする仕事の機械化は難しい。学校の先生なども、一部の授業の映像化はできても、生徒一人一人に対しての指導は人と人との関わりが大切ということを考えても機械化はできないだろう。

　よって、機械に任せられる業務は機械が行い、人は人にしかできない仕事を担当することになるだろう。そのため、今よりも仕事量が減り、働きやすさも変わるように思う。そのことから、休暇を増やす、残業を減らすことなどが可能となり、現在の厳しい労働状況が改善され、今よりも余裕を持った働き方ができるようになると考えられる。

(395字)

生徒メモ欄

教員記入欄

自己評価表

答案が完成したら、以下表を用いて自己評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S	A	B	C	F
意見（主張）	設問と意見の関係	S	A	B	C	F
	独自性・独創性・発展性	S	A	B	C	F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S	A	B	C	F
	重要性・問題性	S	A	B	C	F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S	A	B	C	F
	簡潔な記述	S	A	B	C	F
表記・表現	誤字・脱字	S	A	B	C	F
	段落の設定	S	A	B	C	F
	制限字数	S	A	B	C	F
	文体の統一	S	A	B	C	F
	表現技法	S	A	B	C	F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター4

答案例②

　人工知能は、少子高齢化が進むこれからの日本に無くてはならないものである。人工知能の活用により、私たちの働き方も大きく変わるだろう。具体的には、きつい・汚い・危険と言われる「３Ｋ」の仕事内容が変化していくと考えられる。例えば看護・介護職の現場だ。２４時間体制で見回るなど身体的負担が多く、時には排泄の手伝いや処理をするなど精神的にも過酷な仕事であるが、見守りシステムや介護ロボットの導入により、現場職員の負担は軽くなるだろう。一方で、入所者とのコミュニケーションの時間や就労者の自己研鑽の時間を増やすことにより、提供するサービスの質の向上にも繋がると考えられる。

　これからはより人工知能を発達させるべきだ。人工知能は産業の生産性を向上させ、技術革新を加速させ、私たちの社会に革命を起こすだろう。持続可能でよりよい世界を目指すことにより、次世代に豊かな世界を引き継げることを、私は願っている。

(394字)

生徒メモ欄

教員記入欄

自己評価表

答案が完成したら、以下表を用いて自己評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S	A	B	C	F
意見(主張)	設問と意見の関係	S	A	B	C	F
	独自性・独創性・発展性	S	A	B	C	F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S	A	B	C	F
	重要性・問題性	S	A	B	C	F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S	A	B	C	F
	簡潔な記述	S	A	B	C	F
表記・表現	誤字・脱字	S	A	B	C	F
	段落の設定	S	A	B	C	F
	制限字数	S	A	B	C	F
	文体の統一	S	A	B	C	F
	表現技法	S	A	B	C	F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター5

レベルアップのための読書案内

本講で学んだことをブラッシュアップするために、
おすすめ書籍情報や本の読み方を学びましょう。

講義メモ欄

生徒メモ欄

教員記入欄